

知的財産権概論 第6回 特許を受けられる発明とは－1

2013年11月6日

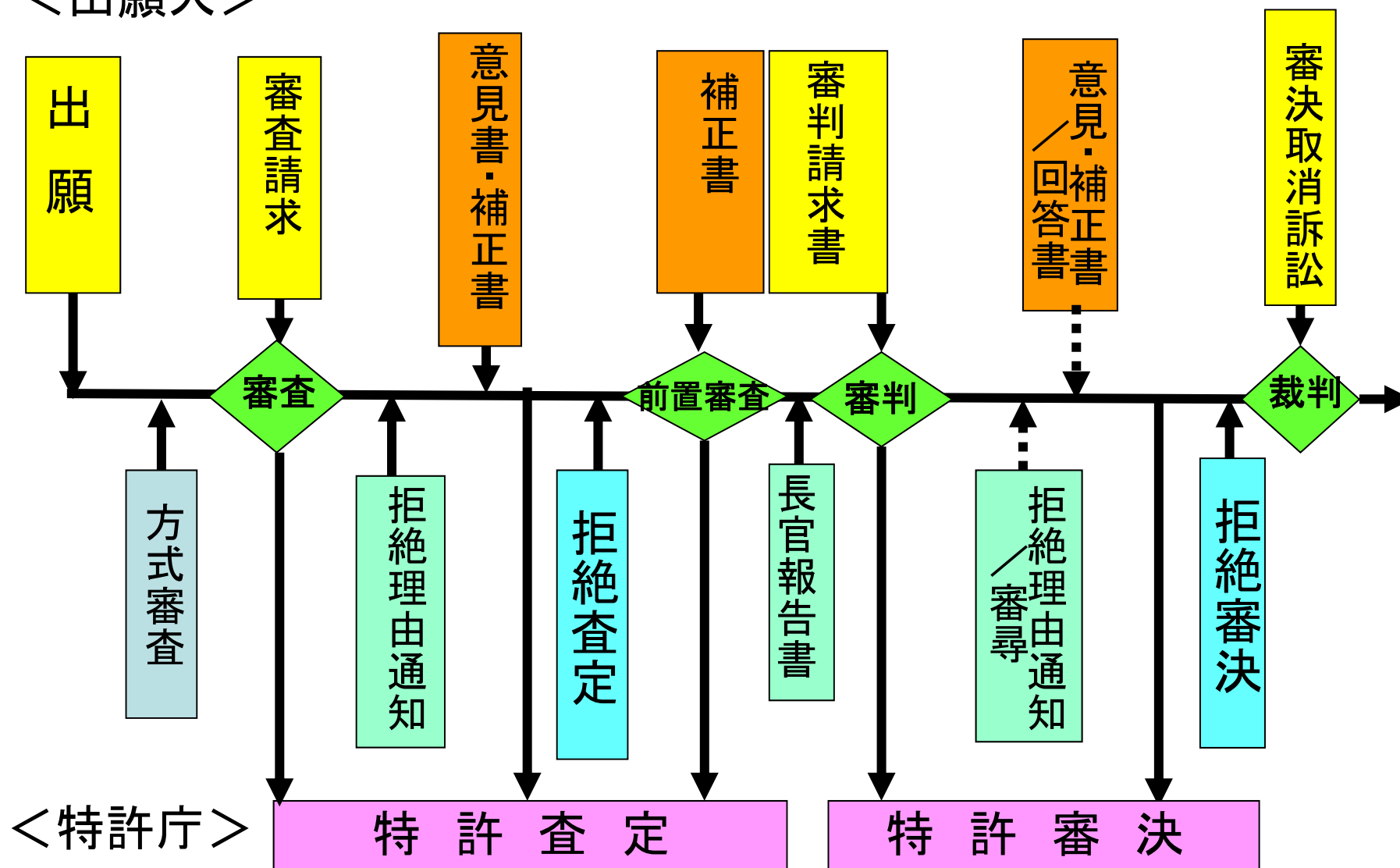
弁理士 佐伯裕子

第6回 講義内容

1. 審査と審判の審理の流れ
2. 新規性
3. 進歩性
4. 新規性の例外規定
5. 先願であること

審査と審判の審理の流れ

<出願人>



<特許庁>

特許を受けられる発明の条件

- ① 特許法上の発明・産業上利用できる発明
(§ 2) § 29-1 柱書
- ② 発明の単一性
§ 37
- ③ 新規性
§ 29-1-1, 2, 3
- ④ 進歩性
§ 29-2
- ⑤ 先の出願がない (先願主義)
§ 39 § 29の2
- ⑥ 明細書の記載要件に不備がない
§ 36-4-1, 6-1, 2

新規性違反とは？

1. § 29-1-1, 29-1-2 (公知・公用)

商品の発表、博覧会への出品、販売
秘密保持義務のない人への開示
学会、講演会などでの口頭での発表

2. § 29-1-3 (刊行物)

刊行物への論文発表

講演要旨集

インターネットによる発表

Webに掲載

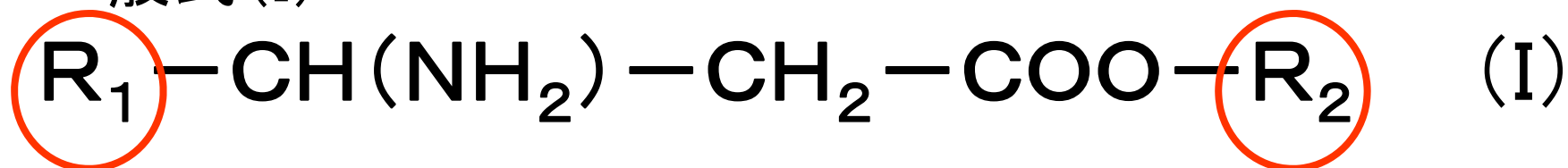
最先公開日
に注意

自分の文献も
公知文献

化学物質の新規性

【請求項1】

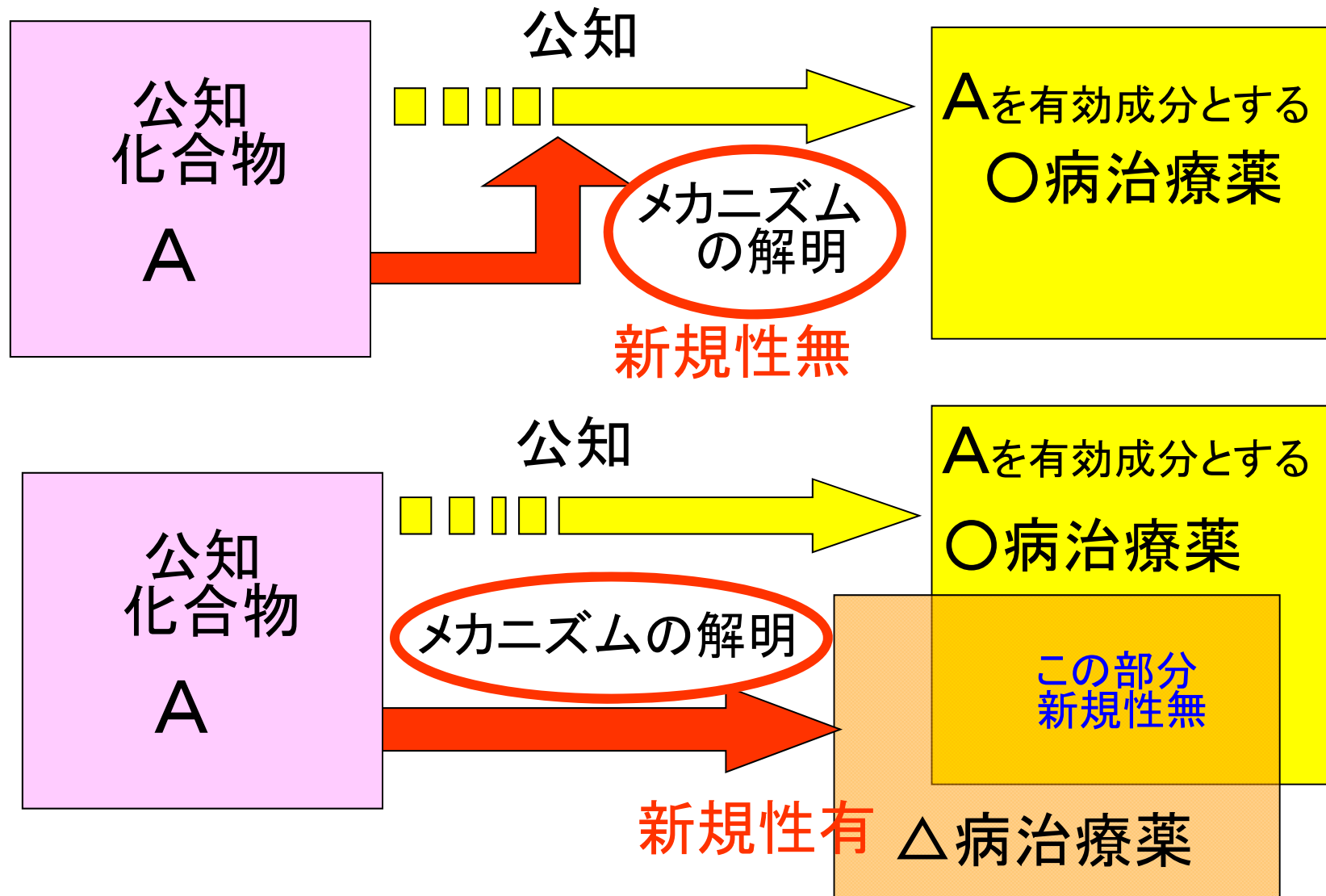
一般式(I)



(式中、 R_1 は、炭素数1～10のアルキル基若しくは炭素数1～10のアルコキシ基で置換されたフェニル基、又はナフチル基を示し、 R_2 は、炭素数1～10のアルキル基又はフェニル基を示す。)

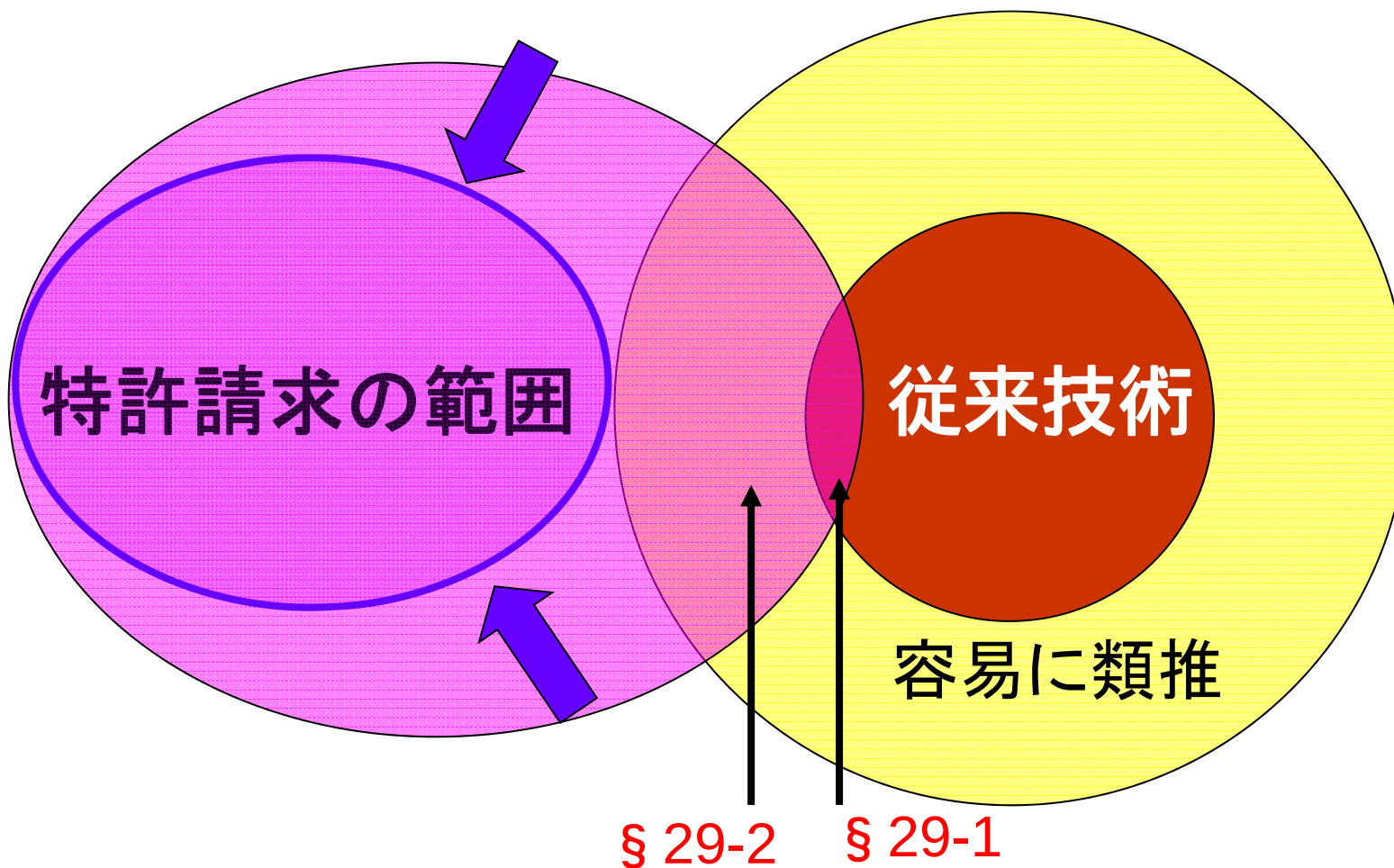
で表される芳香脂肪族カルボン酸又はその塩。

医薬用途発明の新規性

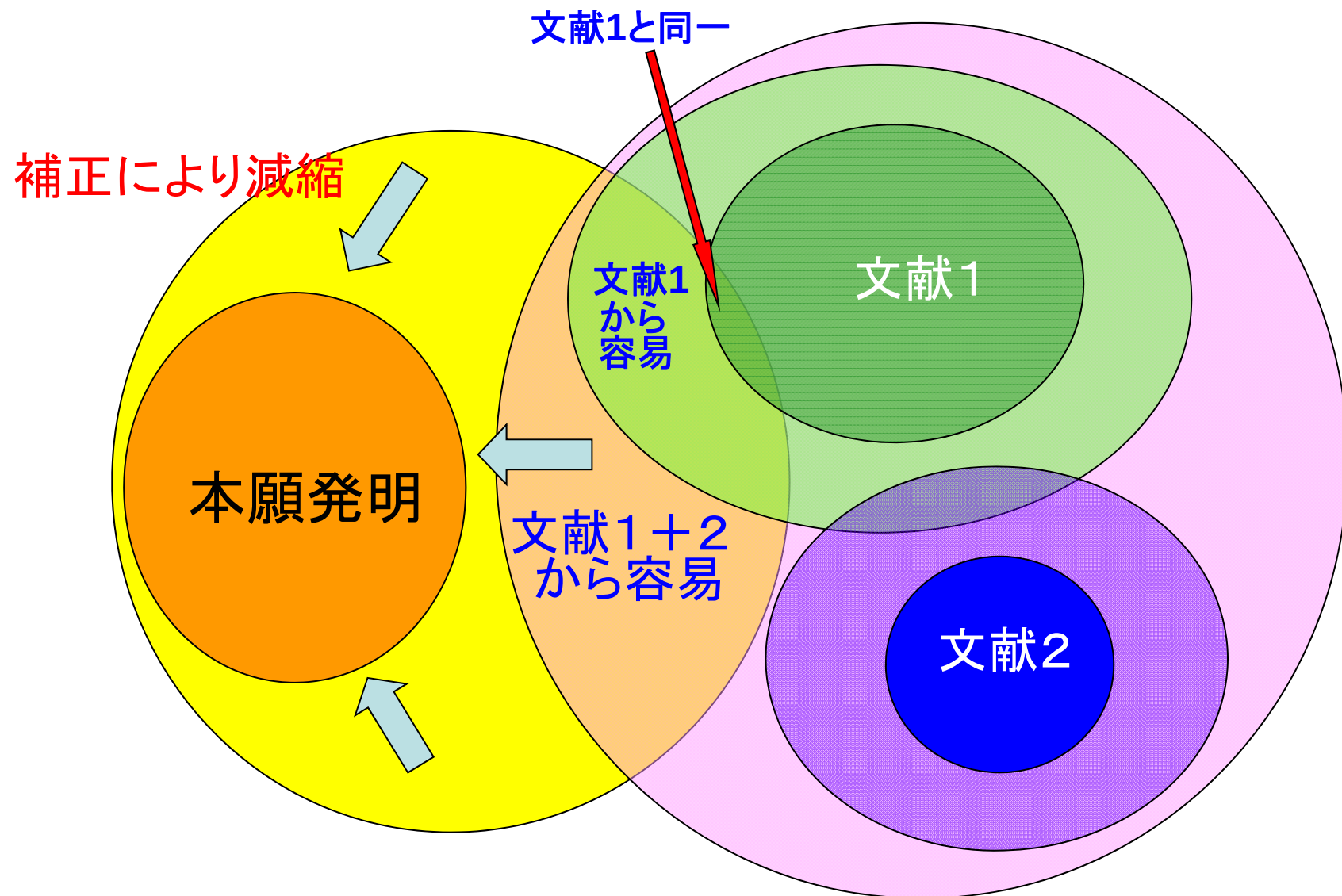


特許請求の範囲と従来技術

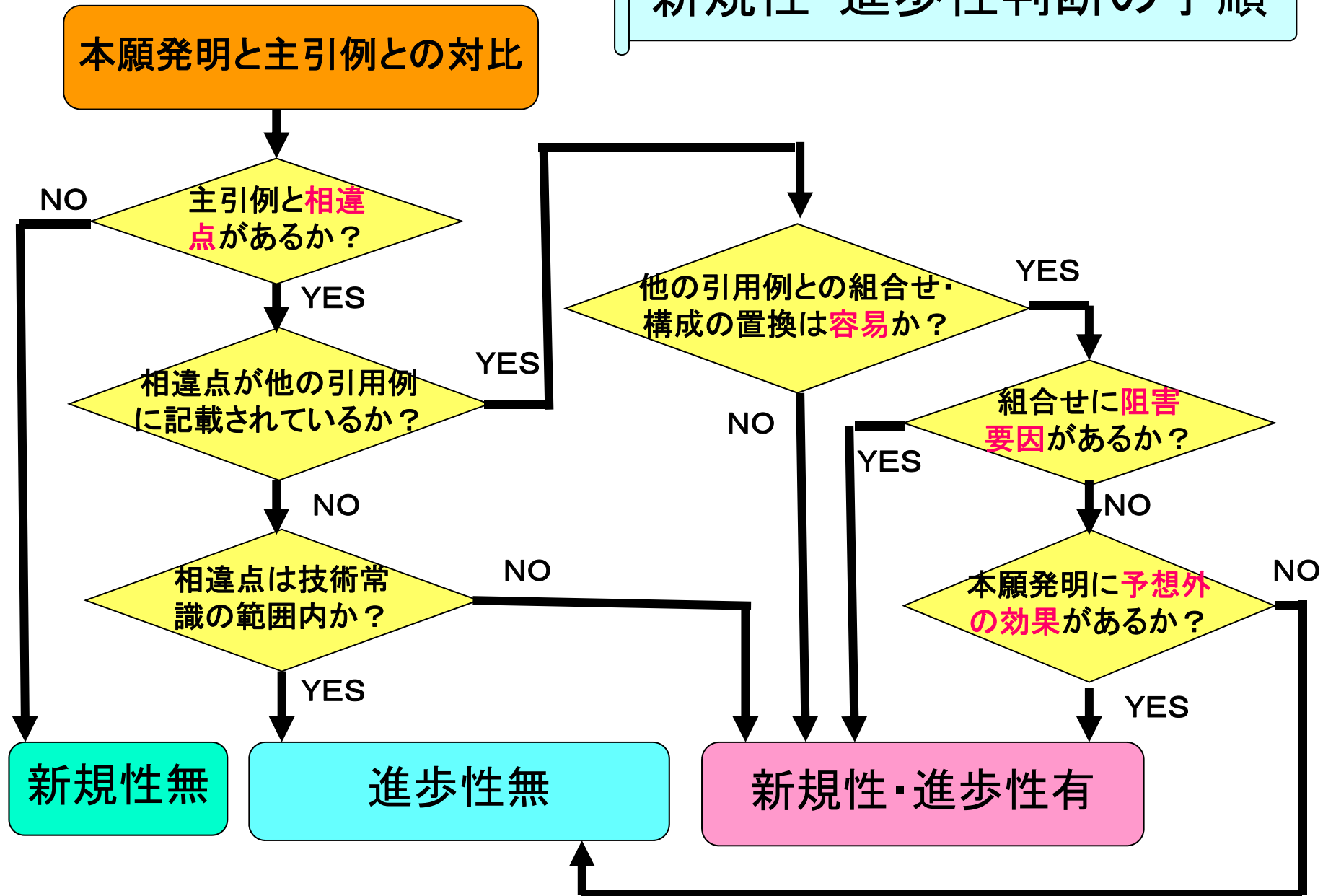
従来技術とその広がり＝新規性・進歩性違反



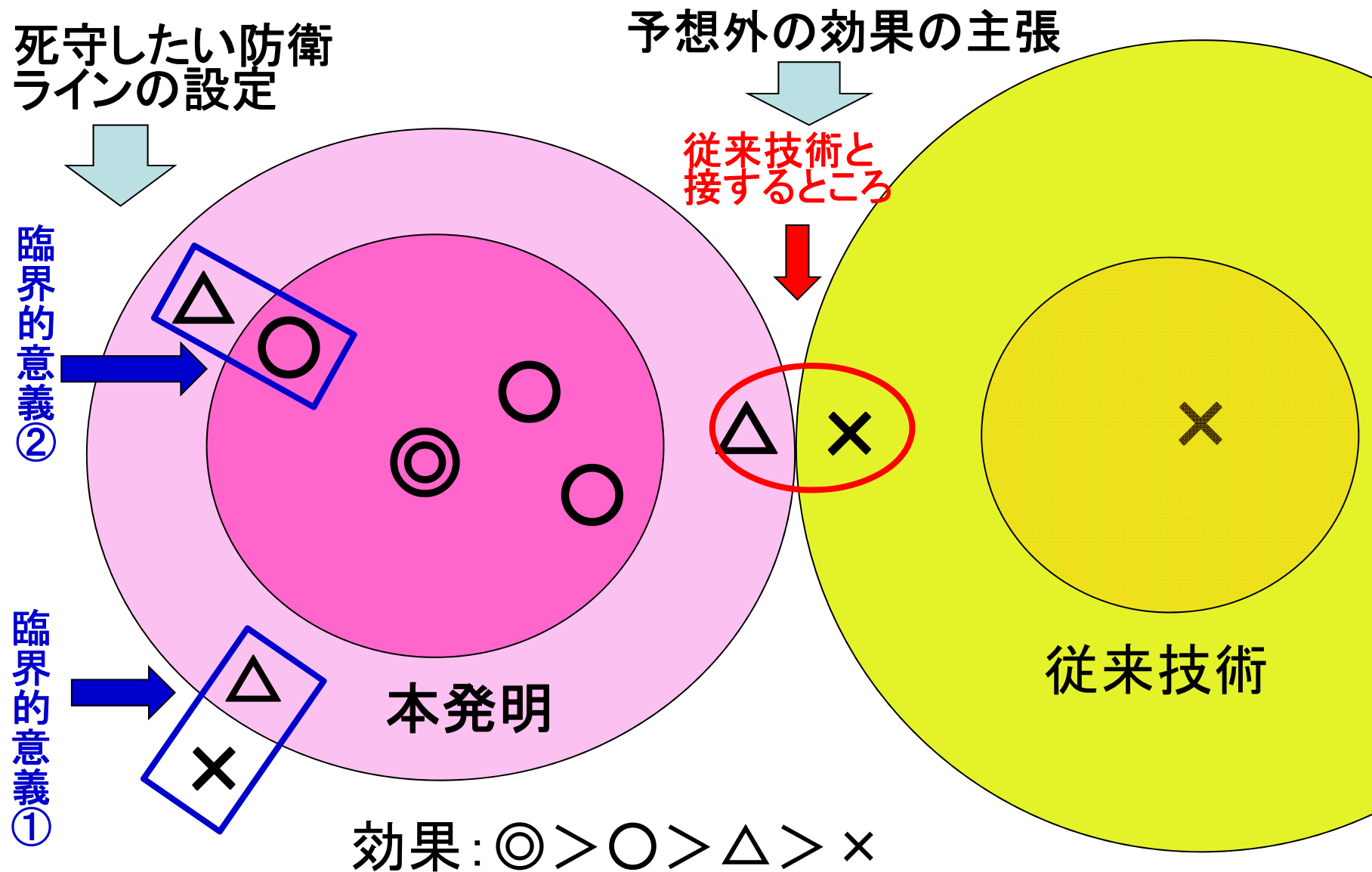
新規性と進歩性



新規性・進歩性判断の手順

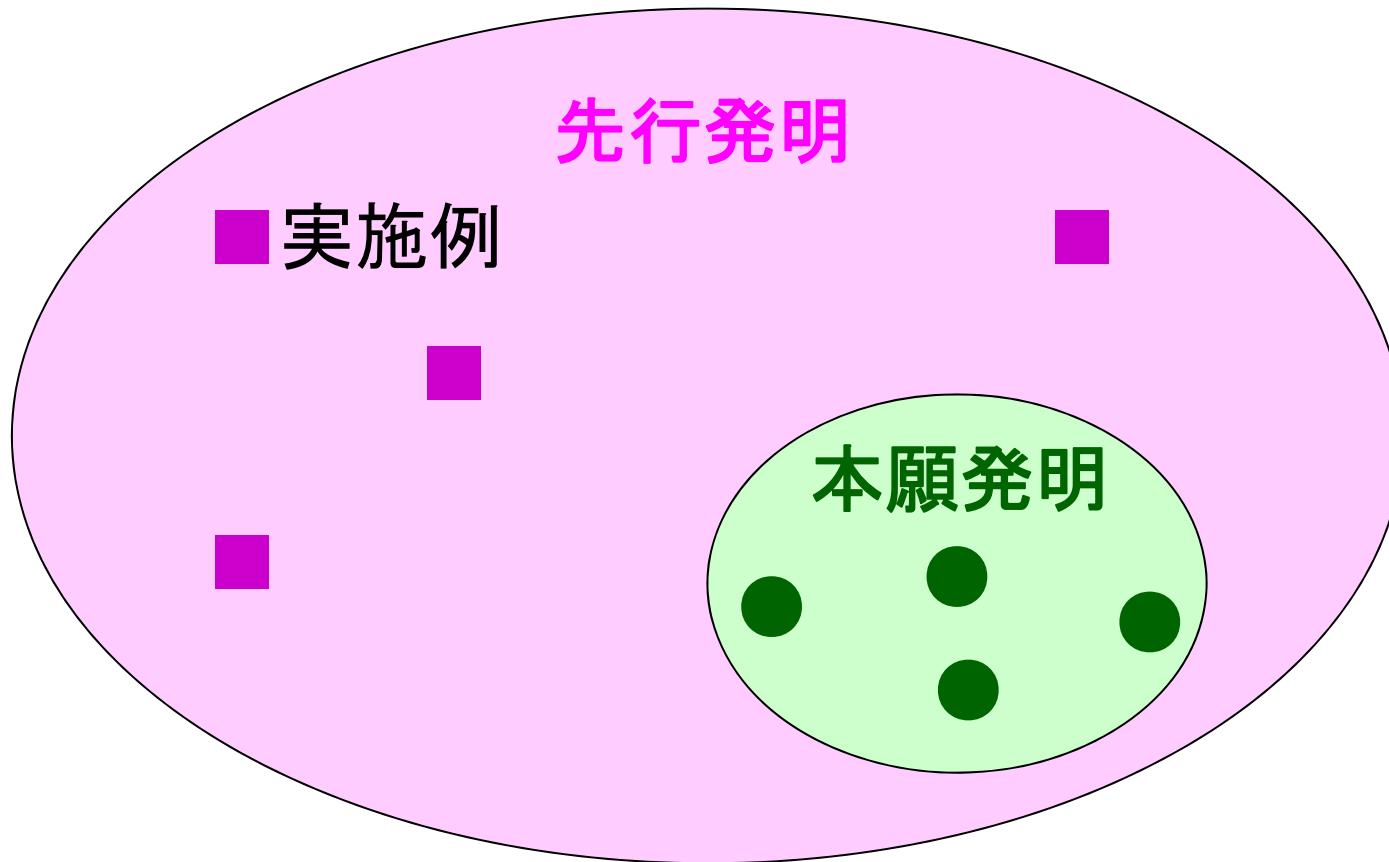


実施例・比較例の役割



選択発明

本願発明の効果 >> 先行発明の効果



新規性の喪失の例外(特許法第30条)

公開していない

通常出願

論文発表
学会発表
販売・展示
記者会見

6か月以内

§ 30-2
出願

30日以内

§ 30-2申請
出願と同時
(願書に記載)

証明書の提出

意に反した公開

6か月以内

§ 30-1出願
(後で主張可能)

学会発表
2013.4.1

出願期限
2013.10.1

6か月

発表
A

新規性 ○
進歩性 ○

新規性 ×
進歩性 ×

出願
2013.9.15
30条適用出願
A or A'

出願
2013.10.2

特許法30条の落とし穴

注意！

- 出願日の遡及ではない
(第3者の発表、出願に対抗できない)
- 出願時に主張しなくてはならない
- 公開日の算定に注意
(学会発表の要旨集、Web公開)
- 日本独自の制度
(除米国／欧州、諸外国にはない。)



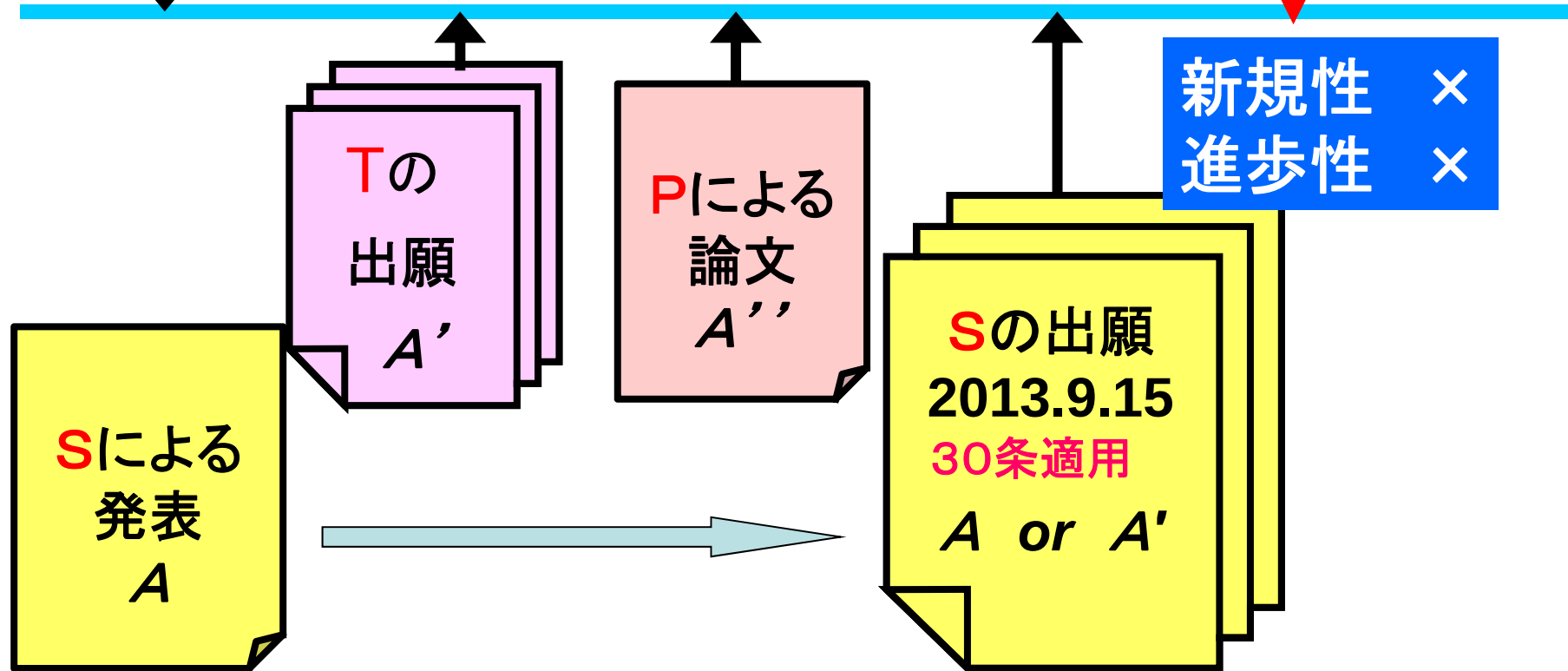
PCT出願

Sの
学会発表
2013.4.1

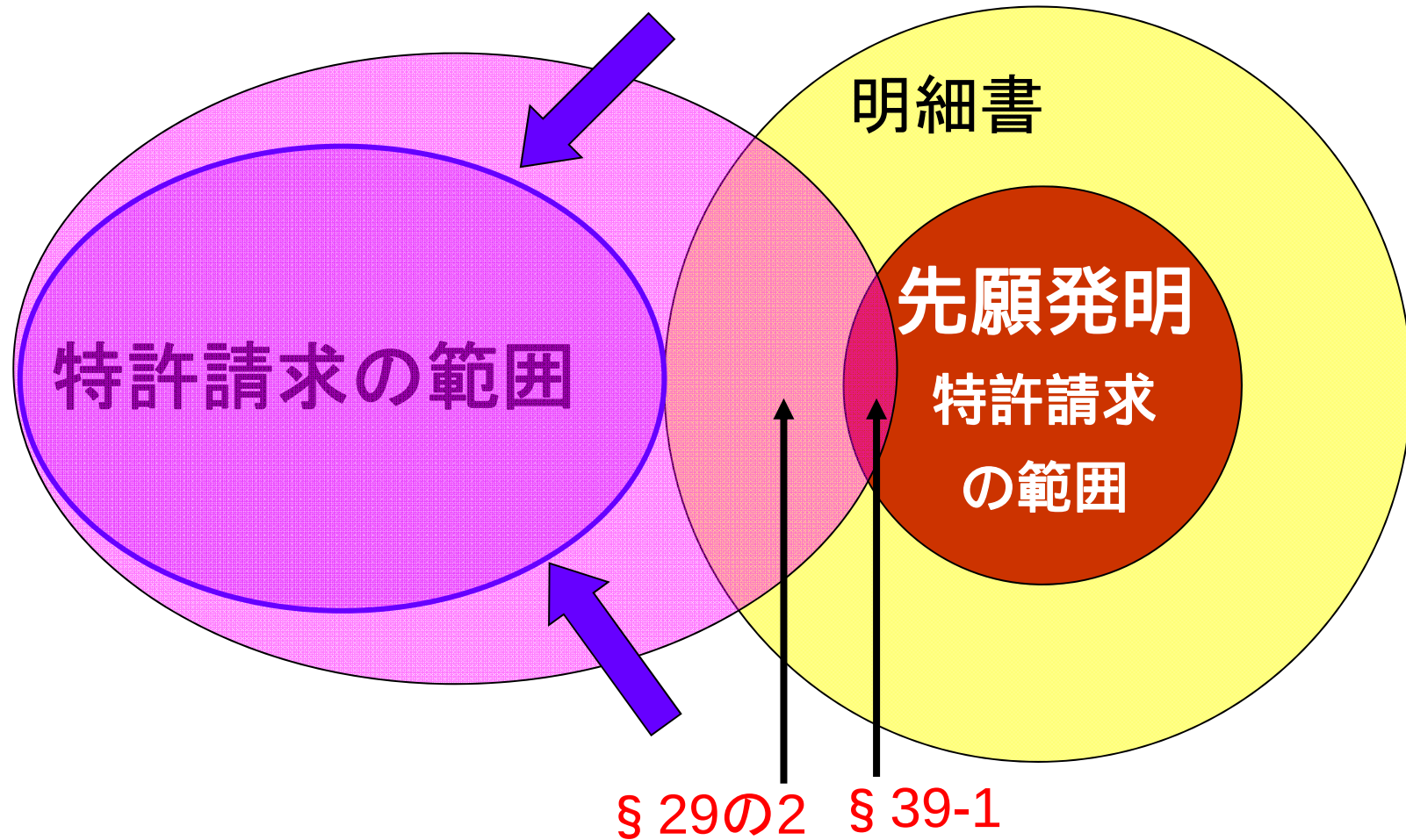
特許法30条の注意点

出願期限
2013.10.1

6か月

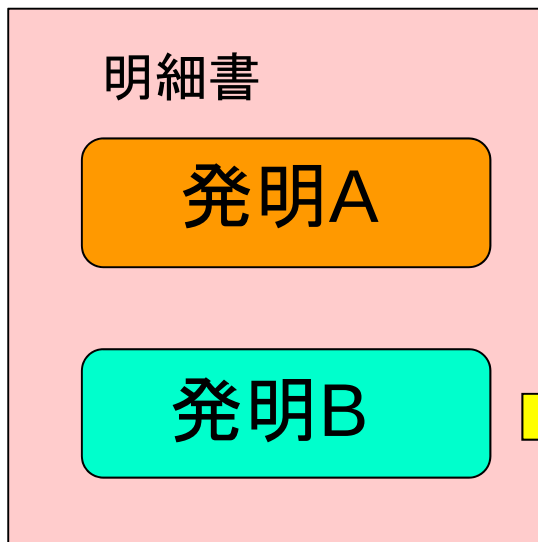
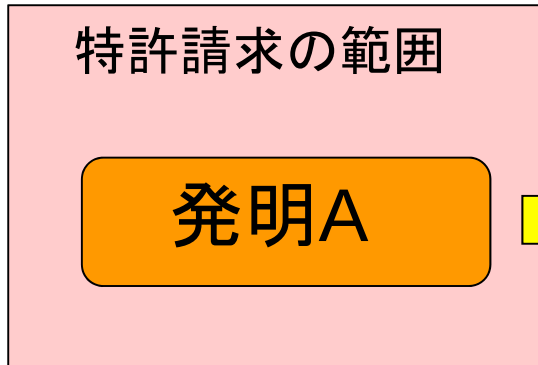


先願発明と特許請求の範囲

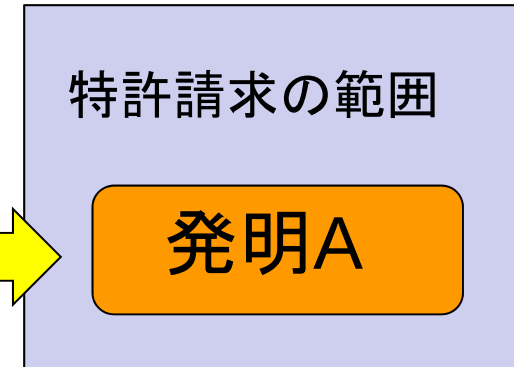


先の出願の後願に対する権利

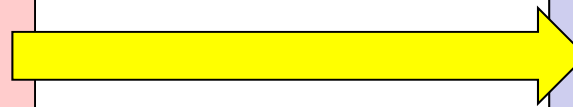
先願



後願1

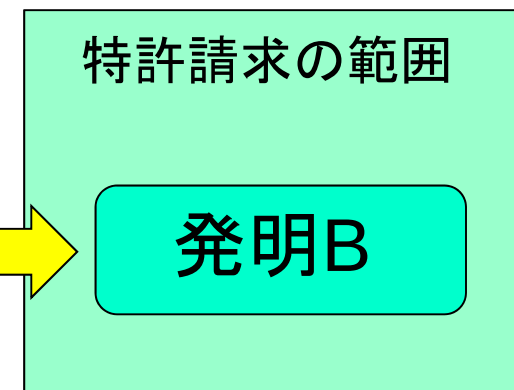


§ 39-1 違反



後願2

(出願人、発明者が先願と相違)



§ 29の2 違反

